

火葬場は2カ所いらない

本市の地形や地域の葬送習慣などを検討し、現行の2施設を整備し

質

三重葬斎場、大野葬斎場の増設について、「市葬斎場建設委員会」では、財政シミュレーション、他市の状況など、あらゆる情報を提示して、検討したのか。

答 市長

現行2カ所を新増築した場合と1カ所で新築した場合の想定規模、事業費などの比較、想定計画図面などを検討・協議しましたが、現在の本市の財政状況や施設建設経費および施設運営経費などを勘案した場合、市内に1極化が望ましいが、平成26年度の合併特例債期限までに建設しなければならぬため、三

重葬斎場を3炉で新築更新、大野葬斎場を2炉で増築更新する結論となりました。



質

次世代へのツケにならないのか。

また、公共施設の見直しが迫られる中で、重複施設である二つの火葬場について、市民へどのように説明するのか。

答 市長

地域社会において必要不可欠な施設であります。また、周辺の地域住民から同意を得ることが難しい施設でもあり、地域の葬送習慣などにも配慮することが必要です。

また、有利な合併特例債を利用するためには、時間的な制限もあることから、現行の2カ所を整備し、華美でなく、機能性を重視した葬斎場となるよう取り組んでまいります。

質

白杵市からの受託と竹田市への委託の解消について、「豊後大野市は一つ」となる絶好のチャンスではないか。

答 市長

両市とは、平成17年の合併時に受託および委託負担金などについての協定書を交わし、今日に至っています。

白杵市については、津久見市と共同で運営する「白津葬斎場」が津久見市側にあり、かなり遠方であるため、現行体制を継続する状況が濃厚であると考えられます。

また、竹田市については、朝地町・緒方町・大野町の将来の推定死亡者を見込んで大野葬斎場の増築更新を計画しておりますが、現状の地域的な利便性を考慮して、現時点では、委託を継続してまいりたいと考えています。

小中学校に平日の国旗掲揚を

～ 入学式や卒業式の取り組みを徹底 ～

質

津久見市教育委員会の国旗掲揚の指示について、教育長の見解は。

答 教育長

文部科学省は、「入学式や卒業式での国旗掲揚は学習指導要領に謳われているが、それ以外で掲揚するかどうか。

質

火葬場は全国的にみても、原則1市1カ所であり、複数の自治体による一部事務組合での運営も多い。なぜ、二つ必要なのか。

答 市長

平成18年に大野町自治会などより、大野町葬斎場の存続の陳情が出され、市議会において採択されていること、合併特例債の期限が平成26年度までとなっており、新たな場所を検討するには時間的に厳しいこと、仮に

本市の1施設で自然災害や不意の事故があった場合には、別の1施設で緊急の対応ができることなど、本市の地形や地域の葬送習慣などを総合的に検討した結果、現行の2施設を整備することとしました。



緑政会 首 藤 正 光



かは、それぞれの教育委員会や学校長の判断」としています。本市教育委員会は、入学式や卒業式において、学習指導要領の趣旨に沿って、厳粛かつ清新な雰囲気の中で、国旗・国歌の意義を理解させ、尊重する態度を育てるとともに、市内全ての小中学校で国旗が掲揚され、国歌が斉唱されるよう指導しています。

常時掲揚ではなく、入学式や卒業式の取り組みを徹底する中で、国旗や国歌を尊重するという趣旨を子どもに伝えていきたいと考えています。

※その他の質問
・三重診療所の廃止について
・三重総合高校について